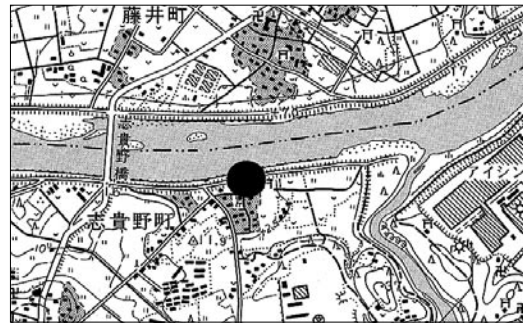


こしんでん
古新田遺跡 範囲確認調査

所在地 西尾市志貴野町
調査理由 矢作川河川改修における範囲確認
調査期間 平成 11 年 5 月～ 7 月
調査面積 500 m²
担当者 木下 一・松田 訓・武井繁樹



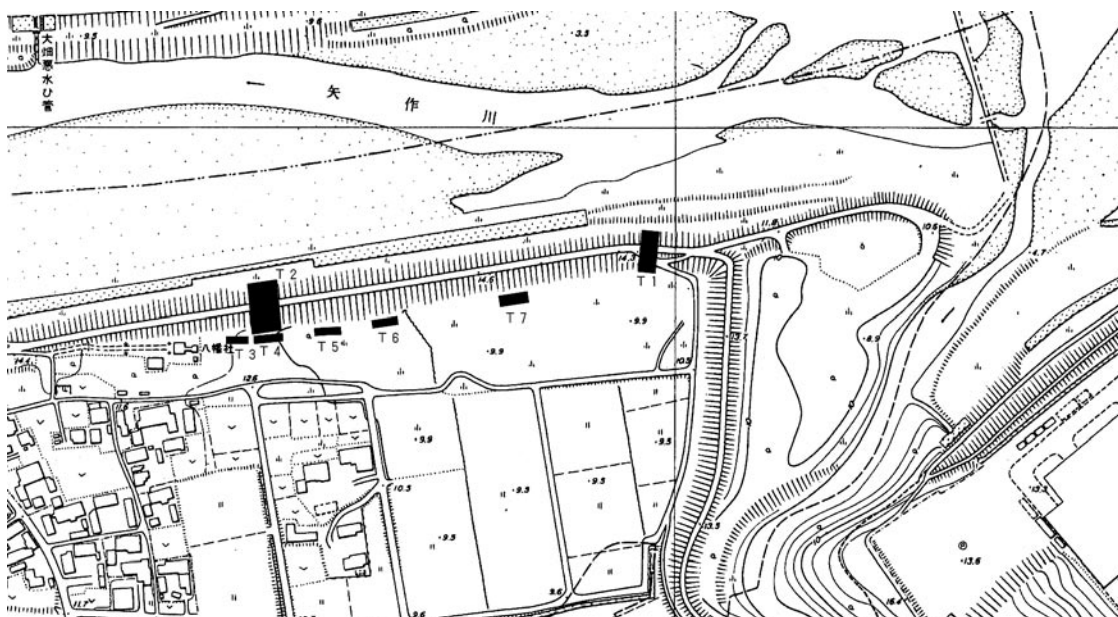
調査地点 (1/2.5 万「西尾」)

調査の経過 調査は矢作川河川改修予定地内における範囲確認調査で、建設省豊橋工事事務所より愛知県教育委員会を通じた委託事業として、平成 11 年 5 月 31 日から 7 月 8 日にかけて実施した。調査面積は、500 m²である。

立地と環境 古新田遺跡は、西尾市志貴野町の矢作川と矢作古川の分岐点付近に所在する。この付近の地形は、矢作川の掘削によりその形は変容しているものの、対岸から延びる碧海台地の舌状に延びた東端にあたる。遺跡の南東には、弥生時代の遺跡として本センターが発掘した岡島遺跡や室遺跡がある。

調査の概要 今回の調査地点は、矢作川左岸の新堤防内側直下で、長さ約 350 m 内に 7ヶ所のテストレンチを設定した。この試掘坑の中で、近世以前の人為的な掘削及び盛土行為が確認できたのは、T 2～4 の 3ヶ所であった。T 1・2 で確認できた旧堤防盛土は、明治期以降の磁器、瓦片が混入しており、近世以前までさかのぼる築造行為の可能性はないと思われる。各地点での盛土以外の堆積土層は、T 2 の中ほどから下流方向には、台地の基盤層である黄橙色粘質土が認められ、この T 2 より上流に向かってはこの基盤層が段を呈するように下がっていた。この段差ラインはほぼ南北方向に認められるため、矢作(新)川の掘削以前では、碧海台地の舌状にのびた端部が T 2 の中ほどを東端として、現矢作川の対岸から南北方向に続いていたものと思われる。

(木下 一・松田 訓・武



調査地点位置図 (1 : 5,000)